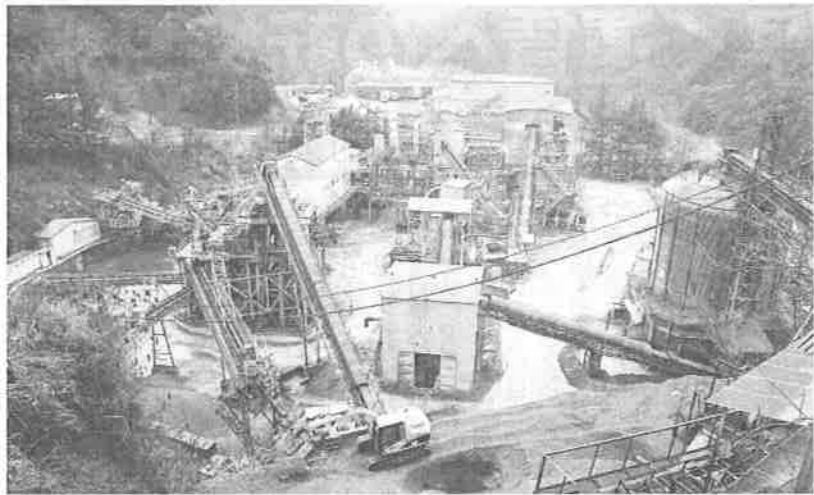


中央砕石創立50周年特集

中央砕石創立50周年特集



メインプラント(第4工場)と湿式製造プラント(第6工場)

高槻(本社)工場は大阪北部に位置し、骨材や補修材まで様々な製品を扱う。1993年に砕砂のJIS認定工場となり、06年に新JIS A5005(コンクリート用砕石及び砕砂)、09年にJIS A5041(コンクリート用砕石粉)を取得。それぞれ全国の砕石工場で認証取得第一号であり、同社の先進的な取り組みの証だ。資源(原石)確保では2000年代から新たな採石区域の開発に着手し、順調に採掘を進めている。工場の概況を紹介する。



切羽の様子。北方面(写真奥)へ開発を進める

高槻(本社)工場は大阪北部に位置し、骨材や補修材まで様々な製品を扱う。1993年に砕砂のJIS認定工場となり、06年に新JIS A5005(コンクリート用砕石及び砕砂)、09年にJIS A5041(コンクリート用砕石粉)を取得。それぞれ全国の砕石工場で認証取得第一号であり、同社の先進的な取り組みの証だ。資源(原石)確保では2000年代から新たな採石区域の開発に着手し、順調に採掘を進めている。工場の概況を紹介する。

高槻(本社)工場は大阪北部に位置し、骨材や補修材まで様々な製品を扱う。1993年に砕砂のJIS認定工場となり、06年に新JIS A5005(コンクリート用砕石及び砕砂)、09年にJIS A5041(コンクリート用砕石粉)を取得。それぞれ全国の砕石工場で認証取得第一号であり、同社の先進的な取り組みの証だ。資源(原石)確保では2000年代から新たな採石区域の開発に着手し、順調に採掘を進めている。工場の概況を紹介する。

高槻工場

高槻(本社)工場は大阪北部に位置し、骨材や補修材まで様々な製品を扱う。1993年に砕砂のJIS認定工場となり、06年に新JIS A5005(コンクリート用砕石及び砕砂)、09年にJIS A5041(コンクリート用砕石粉)を取得。それぞれ全国の砕石工場で認証取得第一号であり、同社の先進的な取り組みの証だ。資源(原石)確保では2000年代から新たな採石区域の開発に着手し、順調に採掘を進めている。工場の概況を紹介する。

数十年分の原石確保

高槻工場はJR高槻駅から北に車で30分ほどの府道6号線沿いの山あいに位置し、さらに北に30分ほど行くと京都の亀岡に至る。周辺には、1950年代に開発された500m程度の採石場が5事業所あったが、終掘による閉山や倒産・廃業で今は中央砕石を含めて2社事業所まで減った。同社は50年の間に2カ所の鉱区を終掘し、3鉱区目の開発を進めている。採石区域は約50分の10分な広さで周辺の用地の手配も可能であり、この先数十年分の原石を安定確保できる見通しだ。原産地は硬質砂岩で1200N/mmまでの高強度コンクリートの骨材に使用される。現在の鉱区は数年前から表土や頁岩の多い断層部分にあたり、表土処理プラント(第2工場)で表土を除去し、砕石を製造している。現行の採石区域については今年3月に5年の計画認可を受けた。大阪府から高槻市に許認可事務が権限委譲し初めての認可更新となったが、府と市が密接に協議しており申請後、認可はスムーズに下りた。跡地整備では第1工場(鉱区)は緑化を終え、現在、新名神の工事関係者で、旧鉱区は表土や砂、石灰砕砂等を混合し、砕石業者として元々砕砂(砕砂)を余剰品ではなく製品とみなしてきた背景があり、1980年代から乾式、湿式両砕砂の製造を開始した。砕砂製造にあたってはこれまで「高品質骨材」を謳い天然砕砂としての地位を確立してきたが、その地位を維持し、常に「常に安定した品質」を心がけている。ユーザーには山砂や海砂等には比べた品質のばらつきが少なさが期待される。他地区では乾式は湿式よりも微粒分量が安定しにくいといわれるが、関西の砕石業者は数十年の間、設備の選別や製造フローの改善など試行錯誤を重ね、乾式生産のノウハウを蓄積している。当社も2系統のケージミルのすりもみ式磨砕、最終工程でのパドルミキサー(混水機)による表面水分の調整などにより、粒形を改善し、微粒分量を一定範囲内に抑えている。――砕砂製造時の副産物の有効利用は。山本社長 乾式砕砂の製造当初から砕石粉の製品化を念頭に入れた生産フローにしており、砕石粉についても混和材料として活用している。――砕砂製造時の副産物の有効利用は。山本社長 乾式砕砂の製造当初から砕石粉の製品化を念頭に入れた生産フローにしており、砕石粉についても混和材料として活用している。

「常に安定品質」の乾式砕砂製造

砕石、砕砂、砕石粉のJIS取得



表土処理プラント(第2工場)



乾式砕砂のストックヤード。「立米ブロック」を仕切りに活用する

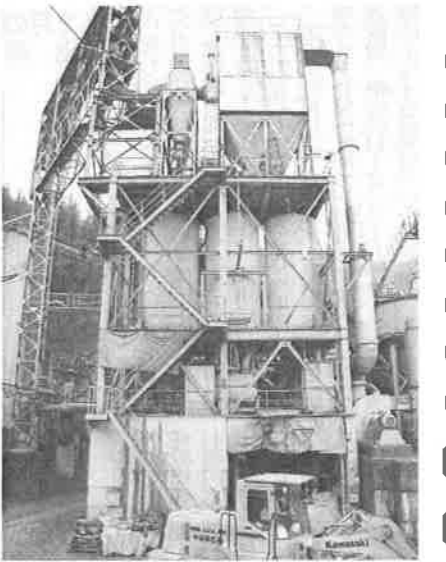
脱水ケイキ等を埋め戻ししている。同社では採石跡地整備の緑化促進として覆土に適した園芸用の土を確保するため、一般家庭では捨てる園芸用の土をホームセンターで回収し、砕石工場に活用する。レストアースボストシステムを提唱する。全国的な取り組みにするため、土の回収拠点として多店舗展開のホームセンター、引き受け拠点として栃木や愛知の砕石企業に参加を呼びかけており、今年10月の園芸業界の展示会「国際ガーデニングエキスポ」に昨年引き続き出展し、システムを紹介する予定だ。骨材プラントは1984年に乾式、翌年に湿式砕砂の生産に着手し、1990年に自動化運転を開始した。現在はメインプラントの第4工場、乾式砕砂「スーパーサン」6号を含む合材用や道路

中央砕石 山本和成社長



会社データ
設立:1963年(創業1912年)
所在地:大阪府高槻市大字原856-4
資本金:1000万円
従業員:42人

昨年7月に創立50周年を迎えた中央砕石。前身の山本砕石は1912年から京都府南部の木津川で河川砂利採取を行い1958年に高槻工場を設立し、砕石業に転換。その5年後の1963年に中央砕石として独立発足した。1980年代からコンクリート用砕砂の製造に着手し、近畿地区の砕石業界を引っ張る形で品質向上に努め、砕砂を大阪地区のコンクリート用細骨材の主流に押し上げた。並行して補修材供給を中心にニーズをとらえた提案型事業も展開する。山本和成代表取締役社長に今後の方針を聞いた。



砕石粉を製品化する乾式砕砂プラント(第5工場)

――当面の目標から。山本社長 当社はこの10年間で、従来の砕石事業に加えて「第2の事業」として砕砂の拡販を図り、「第3の事業」として骨材販売以外の新たな市場開拓を図ってきた。10年が経ち砕砂は大阪のコンクリート用細骨材の主流になり、当社の骨材の出荷比率の4割弱まで拡大した。第3の事業である砕石・砕砂、砕石粉の用途開発による資材(材料)提案も進み、総じて全社の売り上げの1割を占めるに至った。――砕石・砕砂事業の展望は。山本社長 主要販売エリアである大阪東部の生コンやコンクリート製品工場では砕砂を細骨材の主要材料として山砂、海

機能やサービス付加して需要開拓

補修材供給中心に「第3の事業」展開

――砕砂製造時の副産物の有効利用は。山本社長 乾式砕砂の製造当初から砕石粉の製品化を念頭に入れた生産フローにしており、砕石粉についても混和材料として活用している。――砕砂製造時の副産物の有効利用は。山本社長 乾式砕砂の製造当初から砕石粉の製品化を念頭に入れた生産フローにしており、砕石粉についても混和材料として活用している。

砂、石灰砕砂等を混合し、砕石業者として元々砕砂(砕砂)を余剰品ではなく製品とみなしてきた背景があり、1980年代から乾式、湿式両砕砂の製造を開始した。砕砂製造にあたってはこれまで「高品質骨材」を謳い天然砕砂としての地位を確立してきたが、その地位を維持し、常に「常に安定した品質」を心がけている。ユーザーには山砂や海砂等には比べた品質のばらつきが少なさが期待される。他地区では乾式は湿式よりも微粒分量が安定しにくいといわれるが、関西の砕石業者は数十年の間、設備の選別や製造フローの改善など試行錯誤を重ね、乾式生産のノウハウを蓄積している。当社も2系統のケージミルのすりもみ式磨砕、最終工程でのパドルミキサー(混水機)による表面水分の調整などにより、粒形を改善し、微粒分量を一定範囲内に抑えている。――砕砂製造時の副産物の有効利用は。山本社長 乾式砕砂の製造当初から砕石粉の製品化を念頭に入れた生産フローにしており、砕石粉についても混和材料として活用している。

砂、石灰砕砂等を混合し、砕石業者として元々砕砂(砕砂)を余剰品ではなく製品とみなしてきた背景があり、1980年代から乾式、湿式両砕砂の製造を開始した。砕砂製造にあたってはこれまで「高品質骨材」を謳い天然砕砂としての地位を確立してきたが、その地位を維持し、常に「常に安定した品質」を心がけている。ユーザーには山砂や海砂等には比べた品質のばらつきが少なさが期待される。他地区では乾式は湿式よりも微粒分量が安定しにくいといわれるが、関西の砕石業者は数十年の間、設備の選別や製造フローの改善など試行錯誤を重ね、乾式生産のノウハウを蓄積している。当社も2系統のケージミルのすりもみ式磨砕、最終工程でのパドルミキサー(混水機)による表面水分の調整などにより、粒形を改善し、微粒分量を一定範囲内に抑えている。――砕砂製造時の副産物の有効利用は。山本社長 乾式砕砂の製造当初から砕石粉の製品化を念頭に入れた生産フローにしており、砕石粉についても混和材料として活用している。



専用プラントでのモルタル(補修材)製造

――砕砂製造時の副産物の有効利用は。山本社長 乾式砕砂の製造当初から砕石粉の製品化を念頭に入れた生産フローにしており、砕石粉についても混和材料として活用している。――砕砂製造時の副産物の有効利用は。山本社長 乾式砕砂の製造当初から砕石粉の製品化を念頭に入れた生産フローにしており、砕石粉についても混和材料として活用している。

――砕砂製造時の副産物の有効利用は。山本社長 乾式砕砂の製造当初から砕石粉の製品化を念頭に入れた生産フローにしており、砕石粉についても混和材料として活用している。――砕砂製造時の副産物の有効利用は。山本社長 乾式砕砂の製造当初から砕石粉の製品化を念頭に入れた生産フローにしており、砕石粉についても混和材料として活用している。

――砕砂製造時の副産物の有効利用は。山本社長 乾式砕砂の製造当初から砕石粉の製品化を念頭に入れた生産フローにしており、砕石粉についても混和材料として活用している。――砕砂製造時の副産物の有効利用は。山本社長 乾式砕砂の製造当初から砕石粉の製品化を念頭に入れた生産フローにしており、砕石粉についても混和材料として活用している。